

関空はしか拡散



1か月で37人発症

関西空港で、8月中旬から麻疹の集団感染が広がっている。5日までに関空の従業員32人と、その診察などにあった医療関係者2人、一般客3人の計37人が発症。今後も拡大が心配されている。国際線だけで1日数万人もの利用客がある入空の玄関口で麻疹の感染はどのように広がったのか。

7月31日

「関空を7月31日に利用した誰かから広がったとみるのが有力だ」

関空を運営する関西エアポート幹部は、関空関係者らが次々と麻疹に感染する「関空ルート」の起点を7月末と推定する。

根拠は、厚生労働省などによる麻疹感染者の行動調査で多い型だった。

「空の玄関口」追跡困難

国内で8月9〜11日に麻疹を発症した4人が全員、7月31日に関空にいたことがわかり、麻疹の潜伏期間（10〜12日）から逆算すると、この時期に関空にいた「誰か」から感染したとみられるためだ。

4人の内訳は1人が関西エアポートのグループ会社の従業員、残り3人は一般客で、麻疹の遺伝子型も同じ「H1」で中国やモンゴルで多い型だった。

(2016.9.6 読売新聞)

次のような麻しん(はしか)流行のニュースを目にした人も多いと思います。9月25日現在で累計145人の感染が確認されています。麻しんは感染力が非常に強く、免疫を持っていない人は、ほぼ100%発症すると言われています。予防接種で発症を防ぐことができます。

予防接種は2回受けることになっていますが、1回の接種では免疫力が低下している場合があります。県内に感染者は出ていませんが、充分注意し、予防接種を1回しか受けていない人は、早めに2回目の接種を受けてください。

麻しんは重症化する恐れがあり、毎年、数十人が死亡しています。症状があった場合は早めに受診し、診断を受けた場合(疑いも含む)は、必ず学校に連絡してください。予防接種が最も重要です。

感染源

麻疹ウイルス(感染力が非常に強い)

感染経路

空気感染、飛沫感染、接触感染

合併症

肺炎、中耳炎を合併しやすい

脳炎 0.1% (後遺症が残ることがある)

死亡 0.1%

症状

潜伏期(10〜12日)の後

① 発熱、咳など風邪様の症状(2〜4日)

② 一時的に熱が下がる

③ 再び熱が上がり、発疹が出る

治療

麻しん自体の治療法はない

対象療法が中心となる



国立感染症研究所 HP より